

〈今月の紙面〉

- ・「食料・農業知っておきたい話」—143回—(2面)
- ・新酪肉近 5年後目標—生乳維持・肉牛1万t増(3面)
- ・東北開拓組織連絡協議会研修会(岩手)(4面)
- ・農場拝見 ㈱なかひら農場(長野県松川町)(5面)
- ・豚熱研究の最前線シンポジウム(6面)
- ・韓国で口蹄疫1年10ヵ月ぶりに発生(7面)
- ・畜産物需給見通し(8面)

開拓情報

発行所
 公益社団法人全国開拓振興協会
 〒102-0093 東京都千代田区平河町1-2-10
 TEL 03-6268-9995
 FAX 03-6268-9996
 ホームページ <https://www.kaitakusya.or.jp>
 全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会共同編集

開拓の歴史を知り地域を繋ぐ 八ヶ岳南麓の美しい風景を後世に 山梨県北杜市・大泉10区自治会



第2部：大泉10区開拓史の様子。先人達の努力を後世に伝える。

25年度農林水産関係予算の主な事項	()は前年度
1. 食料安全保障の強化	
・水田活用の直接支払交付金等	2,870億円
水田での戦略作物の本作化・畑地化、麦・大豆の作付拡大	(3,015億円)
・持続的生産強化対策事業	142億円
野菜、果樹、花き、茶・葉用作物、養蜂等の生産基盤の強化	(148億円)
・合理的な価格の形成	1億円
コスト指標の作成・検証、取引実態調査、消費者等理解醸成	(0.3億円)
2. 農業の持続的な発展	
・地域計画実現総合対策	384億円
地域計画を核として、現場に応じた事業を総合的に実施	(—)
・新規就農者育成総合対策	107億円
新規就農者の育成・確保、雇用労働環境の整備	(96億円)
・スマート農業技術活用促進集中支援プログラム	182億円
スマート農業技術の社会実装の加速化を強力に推進	(—)
3. 農村の振興(農村の活性化)	
・農山漁村振興交付金	74億円
官民共創、農福連携、中山間地域等の農用地保全の推進	(84億円)
4. みどりの食料システム戦略による環境負荷低減への取組強化	
・環境保全型農業直接支払交付金	28億円
地球温暖化防止や生物多様性等に効果の高い営農活動への支援	(26億円)
・みどりの食料システム戦略推進総合対策	6億円
有機農産物の生産・需要拡大、環境負荷低減を支援する新制度構築への調査	(7億円)
5. 多面的機能の発揮	
・多面的機能支払交付金	500億円
地域資源を適切に保全管理するための共同活動への支援	(486億円)
・中山間地域等直接支払交付金	285億円
中山間地域等での農業生産活動継続への支援	(261億円)

25年度予算何とかな年度内に成立 農林水産関係予算は0.1%増

25年度予算が、3月31日に成立した。今回の予算案は、衆院通過後の参院で、石破茂首相が高額医療費制度の自己負担上限額引き上げの全面凍結を決定したため、約105億円の経費を追加した上で、前年度比0.1%(20億円)増の2兆2706億円となった。改正食料・農業・農村基本法の初動5年間の初年度として、4月に制定された新基本計画を実行するための経費が盛り込まれており、わずかながら2年連続の増額となった。主な事項は図参照。

『多面的機能の発揮』として、「多面的機能支払交付金」500億円(同486億円)で14億円増となった。農地や水路などを守る地域の共同活動を支援する。『食料安全保障の強化』として、水田活用の直接支払交付金(2870億円(前年度3015億円))の増額(20億円)が実現した。『農業の持続的な発展』として、「地域計画実現総合対策」384億円を計上。24年度補正予算と合わせて1000億円以上を確保し、現場の状況に応じた施設整備や、人材育成に係る事業を総合的に実施する。

『食料安全保障の強化』として、水田活用の直接支払交付金(2870億円(前年度3015億円))の増額(20億円)が実現した。『農業の持続的な発展』として、「地域計画実現総合対策」384億円を計上。24年度補正予算と合わせて1000億円以上を確保し、現場の状況に応じた施設整備や、人材育成に係る事業を総合的に実施する。

井出原開拓地は、標高1000m以上の高冷地だ。3月30日、大泉総合会館において、地元の大泉10区自治会の主催による「はじまりの思い出」がまち大泉10区開拓史教室が開催され、160名が参集した。第1部は「親子で学ぶ北杜市の歴史」と題して八ヶ岳南麓について3名の語り部が話をした。開拓2世の小宮山博子さんは、紙芝居を交えて八ヶ岳と富士山の背比べの物語や、自身の子どもの時代の体験を話した。北杜市職員の渡邊泰彦さんからは、縄文時代からの歴史についての詳しい解説があった。



開拓1世：中村小太郎さん

地域計画が専門分野の前田博さんは同地の魅力について語った。第2部は、「大人向け大泉10区開拓史」と題してパネルディスカッションが行われた。まず、3世の前田真理さんが、祖母の話や、地元の開拓史などを元に今日までの歴史を紡いだ。初めの家は三角屋根のかやぶき小屋で、入り口にはむしろを下げていた。寝ていると雪が入ってきた。温めていた石を布団の中に入れていた、と祖母の話。井出原開拓協会は、大

熊本豪雨にも負けずに咲く人吉城跡の桜



熊本県の人吉城跡公園は、近くに球磨川が流れており、20年の熊本豪雨で甚大な被害を受けたが、今も桜は咲き続けている。人吉市は球磨開拓の近くに位置しており、隣の錦町では、1年半前に復活したゼンカイミート株が稼働している。人吉城は、1198年以来相良家の居城として、明治維新まで続いたという、長い歴史がある。写真の橋は、蓮の池にかかっている1766年にできた石橋で、熊本県の重要文化財となっている。ここにも濁流が押し寄せたが、橋はびくともしなかった。

飲用向け乳価4円値上げ

関東で飲用・発酵乳等8月から

関東生乳販連(指定団)は3月31日、大手乳業メーカー3社との25年度乳価交渉において、飲用・発酵乳等向け共に、生乳1kg当たり4円の値上げで妥結したと発表した。8月1日の出荷分から適用される。飲用向け等の引き上げは、23年8月以来2年振りとなる。今後は、都府県別の指定団体でも、引き上げに向けた交渉が進められていく。

本紙は無償で提供しています。ご希望の方はお知らせ下さい。

食料農業 知っておきたい話

第143回

「盗人に追い銭」外交の生贄はコメと乳製品 上

東京大学大学院特任教授・名誉教授 鈴木宣弘氏



☆日本の食と農の独立の好機？

トランプ大統領の基本姿勢は、「反グローバル」「自己完結型経済」と思われるので、グローバル化に晒され、過度に輸入依存に陥っている日本の食と農からすると、あるべき方向性を示している。米国は日本を、米国の余剰農産物の処分場として、日本を食料で自立させないようにして「胃袋からの属国化」を推し進め、米国発のグローバル穀物商社などの儲けにもつなげてきた。

関税を引き上げてでも輸入によって米国内産業が打撃を受けないように守り、各国にも、より独立した形で自国を守ることを容認するならば、日本も輸入依存度を減らして食料自給率を高め、食と農の独立ができる可能性が高まることになる。

我が国は、長らく、米国の要請に応えることが「外交」という「思考停止」を続け、独自の国家戦略・外交戦略を欠如させてきた。欧州などは、独自の国家・外交戦略を持つているから米国と対等に主張が交わされる。日本が独立国として米国依存を脱却して世界の中でどう生きていくのか、それを早急に確立することが求められている。「盗人に追い銭」外交、「鴨葱」外交からの脱却ができるか、大きな岐路に立っている。

「濡れ衣を着せられた蛾の幼虫物語のてん末」振り返ってみよう。19年8月25日に日米首脳会談で、トランプ大統領がうれしそうに、「安倍さん、中国が買うと言って買わなくなって余ったトウモロコシを日本が買うと約束したあの話、君からしてこれ」と、みんなに聞こえるように当時の安倍総理に促した。総理は「害虫駆除のために買います」と言った。

害虫駆除？とは何か。日本のトウモロコシを蛾の幼虫が食べているので、不足するから、これを買わなくてはいけないのだと説明された。農水省の担当者が記者の質問を受け、「害虫は出ていますが、被害は出ていません」と答えた。これはえらく怒られたのだろうか、後で言い換えた。

「害虫の被害については確認していません」と（結局一緒だが）。しかも、この害虫が出たトウモロコシは青刈り牧草などと一緒に入れて繊維質を与える粗飼料となる。粗飼料が足りなくなっても、アメリカから買う栄養価の高い粒の濃厚飼料のトウモロコシを牛に代わりに食べさせたら牛は病気になる。代わりにならないものを無理やり理由付けに使ってしまったわけだ。

だから、これは最初からそういう理由があったのではなく、「尻拭い」で買う（言葉は悪いが、親分が粗相したので、お尻を拭くのは日本）ということになってしまった。そんなことは恥ずかしくて国民に言えない、何か理由を探せということだ、濡れ衣を着せられたのが、蛾の幼虫だった。この背景には日本が自動車の追加関税に怯えている

万々になってしまう。実は、実際、19年8月25日の会見時、第1報では、日本政府高官の発言として日本が約束した輸入量は1000万tとの情報が出た。ところが、記者の間で駆け巡っていた。そういう可能性は最初から出ていたということだ。

日米貿易協定の交渉で、米国へ輸出する牛肉は、TPPより勝ち取ったと日本側は虚偽の説明を出したら、どうなるか。トランプ氏もまた動いた。TPP（環太平洋連携協定）では低関税率の拡大（200t→6万5005t）のうえ、枠外関税（26・4%）も15年目に撤廃され、完全自由化のほが、2国間協定では、実質的にはわずかな枠の拡大（200tを少し超えても枠内扱いが可能になる程度）にとどまり、関税は撤廃されな

たトウモロコシは青刈り牧草などと一緒に入れて繊維質を与える粗飼料となる。粗飼料が足りなくなっても、アメリカから買う栄養価の高い粒の濃厚飼料のトウモロコシを牛に代わりに食べさせたら牛は病気になる。代わりにならないものを無理やり理由付けに使ってしまったわけだ。

だから、これは最初からそういう理由があったのではなく、「尻拭い」で買う（言葉は悪いが、親分が粗相したので、お尻を拭くのは日本）ということになってしまった。そんなことは恥ずかしくて国民に言えない、何か理由を探せということだ、濡れ衣を着せられたのが、蛾の幼虫だった。この背景には日本が自動車の追加関税に怯えている

万々になってしまう。実は、実際、19年8月25日の会見時、第1報では、日本政府高官の発言として日本が約束した輸入量は1000万tとの情報が出た。ところが、記者の間で駆け巡っていた。そういう可能性は最初から出ていたということだ。

日米貿易協定の交渉で、米国へ輸出する牛肉は、TPPより勝ち取ったと日本側は虚偽の説明を出したら、どうなるか。トランプ氏もまた動いた。TPP（環太平洋連携協定）では低関税率の拡大（200t→6万5005t）のうえ、枠外関税（26・4%）も15年目に撤廃され、完全自由化のほが、2国間協定では、実質的にはわずかな枠の拡大（200tを少し超えても枠内扱いが可能になる程度）にとどまり、関税は撤廃されな

たトウモロコシは青刈り牧草などと一緒に入れて繊維質を与える粗飼料となる。粗飼料が足りなくなっても、アメリカから買う栄養価の高い粒の濃厚飼料のトウモロコシを牛に代わりに食べさせたら牛は病気になる。代わりにならないものを無理やり理由付けに使ってしまったわけだ。

だから、これは最初からそういう理由があったのではなく、「尻拭い」で買う（言葉は悪いが、親分が粗相したので、お尻を拭くのは日本）ということになってしまった。そんなことは恥ずかしくて国民に言えない、何か理由を探せということだ、濡れ衣を着せられたのが、蛾の幼虫だった。この背景には日本が自動車の追加関税に怯えている

万々になってしまう。実は、実際、19年8月25日の会見時、第1報では、日本政府高官の発言として日本が約束した輸入量は1000万tとの情報が出た。ところが、記者の間で駆け巡っていた。そういう可能性は最初から出ていたということだ。

日米貿易協定の交渉で、米国へ輸出する牛肉は、TPPより勝ち取ったと日本側は虚偽の説明を出したら、どうなるか。トランプ氏もまた動いた。TPP（環太平洋連携協定）では低関税率の拡大（200t→6万5005t）のうえ、枠外関税（26・4%）も15年目に撤廃され、完全自由化のほが、2国間協定では、実質的にはわずかな枠の拡大（200tを少し超えても枠内扱いが可能になる程度）にとどまり、関税は撤廃されな

たトウモロコシは青刈り牧草などと一緒に入れて繊維質を与える粗飼料となる。粗飼料が足りなくなっても、アメリカから買う栄養価の高い粒の濃厚飼料のトウモロコシを牛に代わりに食べさせたら牛は病気になる。代わりにならないものを無理やり理由付けに使ってしまったわけだ。

25年度農水予算(畜産・酪農)の概要

25年度農林水産関係予算のうち、畜産・酪農関係の主なものは次のとおり。()内は24年度当初予算額。

★畜産生産体制の強化 8億円(同額) 遺伝子解析技術等を活用した家畜改良の推進、肉用牛の出荷月齢の早期化、和牛の信頼確保のための遺伝子型の検査、乳用牛の長命産産性向上に

★飼料生産基盤立脚型酪農・肉用牛産地支援 56億円の内数() 酪農・肉用牛経営者等が連携した有機飼料の生産拡大等の取り組み支援

★畜産・酪農経営安定対策 2303億円(2296億円)

表 25年産主食用米の作付け意向 (単位:千ha)

Table with 7 columns: Prefecture, 24年実績, 25年意向, 対前年, Prefecture, 24年実績, 25年意向, 対前年. Lists production intentions for various prefectures like Hokkaido, Aomori, Iwate, etc.

※:増加傾向(1%超増) ↓:減少傾向(1%超減) (農水省資料より)

主食用米は19道県が増加傾向

水田における作付け意向(1月末時点)

農水省は3月19日、25年産の水田における主食用米、戦後作物等の作付け意向について、第1回中間的取り組み状況(25年1月末時点)を発表し、128万2000ha

図1 新しい酪肉近 30年度の目標

Table showing production and consumption targets for dairy and meat. Categories include 酪農 (Dairy) and 肉用牛 (Meat cattle) with sub-categories like 生乳の生産量 (Milk production) and 牛肉の生産量 (Beef production).

3月28日、農水省の食料・農業・農村政策審議会畜産部会は、国の畜産政策の指針となる新たな「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本指針」(酪肉近)を農水大臣に答申した。これからの酪肉近では、10年後の生産数量目標を掲げたが、今回はこれを5年後に短縮し、政策効果をより検証できるように改める。30年度までの新たな目標は図1のとおり。

生乳生産量は維持・牛肉は1万t増 新酪肉近 5年後の目標を設定

生乳の生産数量目標は、23年度実績と同じ732万tに設定した。これは、23年度実績と同じ732万tに設定した。これまでの目標780万tから引き下げたが、需要拡大を想定して、おおむね10年後の目標として780万tを目指す。

図2 新しい酪肉近 (本文の概要) (農水省の資料より作成)

Table summarizing the new dairy and meat strategy. It lists status changes, goals for dairy and meat production, and a list of key directions for the industry.

開拓地から自動車の街へ 愛知県豊田市・伊保原開拓



開豊神社の境内でこの地を見守る開拓碑と草薙隊之碑(後)

愛知県豊田市の伊保原開拓は、市の西側に位置し、標高60〜90mの台地にある。戦中は名古屋海軍航空隊飛行場があった。開拓は、45年4〜6月にかけて、ここから神風特別攻撃隊「草薙隊」が沖繩戦に駆けつけ、4隊43機88名が戦死し、56名が散華した。草薙隊の名は熱田神宮の「草薙剣」(由来)に由来する。

46年に、地元の人や引揚者、疎開者など49名が開拓増進隊に応募し、愛知県の進歩農場で約1カ月の入植訓練を受けた。24名が入植を認められ、49年には新たに34名が入植した。この地は飛

開拓組織の動き. List of events and meetings for the Pioneer Organization, including dates and locations like 5月1日付全開連人事、5月13日全日本開拓者連盟政策要望会議・中央常任委員会.

岩手県滝沢市で研修会

東北開拓組織連絡協議会

「24年度第2回東北開拓組織連絡協議会」が3月10日、岩手県滝沢市の姥屋敷多目的研修センターで開催された(写真)。

種田樹の阿部健太郎氏が講演を行った。

はじめに、昔と今では子牛管理の技術のトレンドが変わっていることが紹介された。続いて、子牛の便から正常便と異常便を見極めることで、その子牛の健康状態を把握し、それに適した対策を、事例と共に示した。

続いて、子牛を病気にさせないために、消毒やワクチン接種、観察など、基本的事項の徹底の重要性を予定している。

東北地域の開拓組織に属する酪農・肥育牛生産者や農協職員、講師ら33名が参加した。

開会に当たり、野田頭和義会長が挨拶を行った。講演に入った。

「哺乳子牛の管理のポイント」と題して、雪印

「QSSCスタンダード」で信頼得る 24年度九州開拓系統女性研修会



全開連西日本支所は3月14～15日、福岡県畜産事業協同組合の会議室で、「九州開拓系統女性職員研修会」を開催した。

講師の榎道兼外販事業部長の白川勝博氏が、「食卓に小さなHAPPYを」をテーマに講演した。

同社からあげのティークアウト専門店が、13年間で店舗数30倍強、12年間で売上実績を55倍に伸ばしている。

白川氏は、同社が急速な成長を遂げることができた理由を、「QSSCスタンダード」を徹底したことだと力説。QSSCとは、「Q:クオリティ(商品・品質)」「S:サービス(接客)」「C:クレンliness(清掃・清潔感)」の3つで、これを維持することが飲食店経営の重要なポイントだと指摘した。

白川氏は、このQSSCをスタンダード(基準)



参加者からは沢山の熱心な質問が出た

白川氏は、このQSSCをスタンダード(基準)にして維持することが、顧客の安定確保には欠かせないと強調。いつの店舗でも「同じ商品・品質」「同じ接客」「同じ清潔感」を提供すること、期待が叶い、リピーターを得られると説明した。

定時定量の供給、生産者の信頼醸成が重要な農協職員にとっても共通項が多く、熱心な質疑応答や情報交換が行われ、有意義な研修会となった。

石田さんの栄養満点! おいしさ全開レシピ

今回は、「石田さん」による、牛乳・乳製品を使ったスイーツを紹介する。スキムミルクを使うことで、栄養価をさらに補えるよう工夫されたレシピだ。

☆ミルクいちご大福☆

①いちごはヘタを取って水気を切り、あんこで包み冷蔵庫で冷やす

②白玉粉は厚手のポリ袋に入れてめん棒などで叩いて細かくする

③ボウルにAを入れてタマにならないよう泡立て



～ミルクいちご大福材料(8個分)～	
皮	
・白玉粉	80g
・スキムミルク	大さじ5
・砂糖	大さじ2
A	
・塩	1g
・牛乳	100ml
・水	50ml
・片栗粉	適量
中身	
・あんこ	150～200g (1人当たり20g前後)
・いちご(小～中サイズ)	8個
～乳製品たっぷりいちごヨーグルトムース～	
材料(6人前)	
A	
・牛乳	40ml
・グラニュー糖	28g
・スキムミルク	大さじ3強
・ヨーグルト	350g
・いちご	190g
・グラニュー糖	28g
・粉ゼラチン	5g
・水(ゼラチン用)	50ml
・レモン果汁	小さじ1弱
・ホイップクリーム	お好みの量
・いちご(飾り用)	6個



て器で混ぜる

④Aをフライパン(または鍋)に入れ、中火にかけてへうでかき混ぜながら、もったりとして重なり生地がツヤが出るまで加熱する。

⑤手に片栗粉を付けながら生地を平たく伸ばし①を包む。この時、表面の余分な片栗粉は落とす

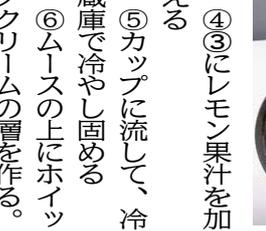
⑥Aをフライパン(または鍋)に入れてひと煮立ちさせ、①を加えて溶かし、粗熱を取る

⑦Aをフライパン(または鍋)に入れてひと煮立ちさせ、①を加えて溶かし、粗熱を取る

⑧③のいちごを1/4に切る。②と⑧を混ぜてキッチンペーパーで混ぜる。いちごの食感を残すために、滑らかになる手前で混ぜるのをやめる

⑨③のいちごを1/4に切る。②と⑧を混ぜてキッチンペーパーで混ぜる。いちごの食感を残すために、滑らかになる手前で混ぜるのをやめる

⑩③のいちごを1/4に切る。②と⑧を混ぜてキッチンペーパーで混ぜる。いちごの食感を残すために、滑らかになる手前で混ぜるのをやめる



栄養コメント



★スキムミルクの活用 スキムミルクは低脂肪で、カルシウム、たんぱく質を手軽に摂取できる食材です。洋菓子から和菓子までお菓子作りにも活用することで栄養価も上がり、味に深みが出ます!

★牛乳・乳製品について 日本人(特に学校を卒業して給食の牛乳を飲まなくなった世代)はカルシウムが不足していると言われていて、牛乳・乳製品はそのままで飲んだり食べたりできる利便性もあるため、普段の食事に取り入れると良いでしょう!

例えば牛乳1杯分(約200ml)には、カルシウムが約220mg含まれています。これは、成人の1日に必要な量の約30%に相当します。脂質が気になる時は、低脂肪牛乳やスキムミルク(20gを180mlの水に溶かす)を利用するのがおすすめです!

旬の食材は美味しく栄養価が高いため、積極的に食べることをお勧めします! いちごは今が旬です。風邪の予防、抗酸化作用、老化防止に効果的なビタミンCを多く含んでいます!

農場 三つの理念で産地を守る

長野県松川町 (株)なかひら農場

南信州、伊那谷のほぼ中央に位置し、町の中央を天竜川が流れる松川町。中央道松川ICから数キロの場所にある(株)なかひら農場を訪れた。

同社は標高が700~800mの増野原開拓の一番奥に位置する。社長の中平義則さん(49)と妻の美紀さん(49)ら家族のほか、50名の従業員が働いている。長男の優人さん(19)は農業大学校に在学中だ。

46年に初代の義人さん(当時19)が復員して入植。山林だった同地を手作業で開墾し、2haの農地から出発。傾斜地で水も無かったため、2kmほど離れた沢から共同作業で土管を埋めて水を引いた。このような水利条件であったため、りんご栽培を開始した。

75年、中央道が開通すると都市部から観光客が訪れるようになり、観光農園を開始。観光客が、収穫したりんごをその場でジュースにして飲んでいるのをヒントに、父の孝雄会長(74)がりんごジュースの製造を始めたのが6次化への取り組みの第一歩となった。



自家産のリンゴのほか、県内外から果物や野菜を仕入れ、年間を通じて工場を稼働できるように製品のラインナップを増やし、現在では約50種類ものジュースを製造している。

約12haの農園では、同社のオリジナル品種を含む計8種のリんごを栽培。直売やネット販売などで全量完売している。加工部門で出たりんご残さは、1年かけて堆肥化。畑に還元する循環型農業を30年近く続けている。

義則さんは就農の際、①人を育てる②品種を育てる③技術を育てる—の3つの理念を掲げた。

かつては開拓精神と地域の団結力の



株なかひら農場の皆さん 写真提供：中平義則氏

強さで離農者が少ない同地域だったが、高齢化と後継者不足から離農が増えているという。そこで①は、産地を維持するために就農支援の場を設けたいという思いから、独自に「南信州りんご大学院」という取り組みを行っている。希望者は授業料が不要で、さらに同社が正社員として雇用することで独立までを手厚くサポートする。

②は、同社でオリジナル品種を開発し、現時点で2品種を登録している。

③は、農業資材や肥料を独自に開発。一般的に凍霜害対策には、灯油などを燃やす「燃焼法」という手法が用いられるが、多大なコストがかかる。そこで開発した防霜資材は、糖蜜などを芽にかけて皮膜をつくることで、表面に氷の結晶ができるのを防ぐ。燃焼法に

比べて約100分の1のコストで凍霜害対策を行えるそうだ。

肥料価格の高騰を受け、県内の食品会社で出る海藻の煮汁を利用した葉面散布剤も開発。管理する畑が毎年1haほど増えているが、これらの資材を利用することで、肥料・農薬代が節減できているそうだ。

地域循環型で、格安な資材を周りの農家にも使ってもらうことで、りんご産地の維持に貢献している。今夏には、地元で発生する卵の殻を用いたりんごの日焼け対策剤を生産する予定だ。

最後に、義則さんは「これからも新しい農業資材の開発や人材育成制度の拡充、地域の維持発展に努めながら、地域と共に伸びる経営を実践していきたい」と語ってくれた。

今世紀末には産地壊滅の危機も みかんとアボカドの適地予測マップ

農研機構は3月7日、「温州みかん・アボカドの適地移動予測マップ」を公表した。今後の温暖化の進行の度合いによっては、現在のみかん産地での生産の継続が危ぶまれる予測だ。

果樹は気候への適応性が低い。温暖化の進行で現在の産地が栽培に適さなくなる可能性がある。みかんは、1℃の気温上昇でも大きな影響を受けるため、産地では、日焼けや浮皮などの高温障害が多数報告されている。

栽植後、長期間同じ樹で生産を続けることから、産地毎に将来の気候変化に合わせた長期的な生産計画が必要となる。

これまでのみかんの栽培適地の予測研究では、地域ごとの気温を細かく予測できていなかった。また、今後の気温上昇は温室効果ガス排出量に左右されるため、適地移動の予測にどの程度の幅が見込まれるかは不明だった。

そこで農研機構は、今世紀半ばと今世紀末におけるみかんとアボカドの適地移動を予測し、個々の産地レベルで適地分布を示した詳細なマップを開発した(図)。予測結果を分析したところ、次の3点が明らかになった。

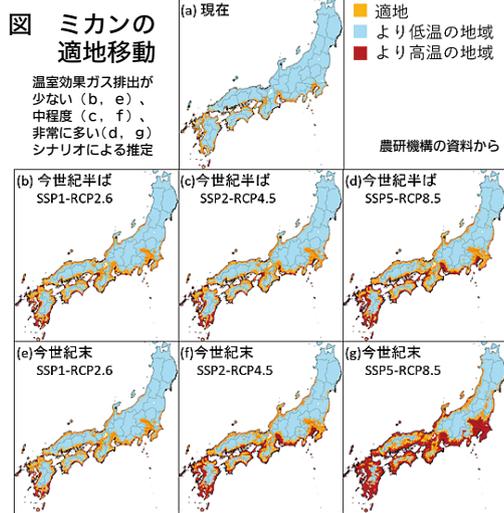


図 ミカンの適地移動
温室効果ガス排出が少ない(b, e)、中程度(c, f)、非常に多い(d, g)シナリオによる推定
農研機構の資料から

①みかんの適地は徐々に北上。適地よりも高温となる地域の多くはアボカドの適地となるため、みかんからより温暖な気候を好む他の柑橘やアボカドへの転換も適応策の一つとなり得る。

②現在のみかん産地の存続に地球規模の温室効果ガス排出量削減が大きく影響する。

③アボカドについては、今世紀半ばには、本州等の沿岸部の一部が栽培適地となり、適地面積は現在の2.5倍以上に拡大する一ことが示された。

同機構は、他の樹種の適地予測マップや、更なる適地予測技術の開発など、樹種転換に関連する技術の開発を継続していく予定としている。

開拓組織の新しい仲間



梅田 知高
全開連
東京都出身

色々なことを学び、成長していきたいです。よろしくお願いします。



村田 翼
全開連
神奈川県出身

日々成長して努力していきますので、よろしくお願いします。



山内 裕太郎
北海道チクレン
北海道出身

早く仕事を覚えて戦力になれるよう頑張りたいと思います。

NARO S. マルチのアプリ開発 AI 灌水適期判断機能など搭載

「NARO S. マルチ」は、温州みかんなどの樹体に適度な乾燥ストレスを与えることで安定的に高品質果実を生産する、という農研機構が開発した技術だ。この技術の導入には排水設計の事前診断が望ましく、専用資材等の購入と施工を必要とする。また、導入後は気象や土壌の状況に応じた灌水が必要で、その判断が重要となる。

そこで同機構は、これらの導入や管理に係る作業を支援することを目的とした、生産者向けスマートフォン用アプリを開発、公開した。

アプリには、S. マルチの導入を支援する資材リストアップ機能、圃地の排水性診断機能、土壌流亡リスクの診断

機能、S. マルチ導入後の AI 灌水適期判断機能が搭載されている。WEB アプリとして開発しており、複数アカウントで果実の生長状況を共有することも可能となっている。

同アプリは、以下のQRコードからアカウント発行申請することで、利用が可能となる。なお、アプリは現時点ではiPhoneのみでの対応となっており、今後、Androidにも対応するかを検討中としている。



← アプリの利用登録はこちらから

豚熱研究の最前線シンポジウム開催

消毒薬の温度別効果など紹介

農研機構は2月18日、オンラインシンポジウム「豚熱研究の最前線」を開催した。18年の再発以降散発的に発生している豚熱について、5年間の研究プロジェクトの報告を行った。日々の飼養管理や対策の参考となるものを紹介する。

◆イノシシ以外の野生動物にも要注意

岐阜大学の七條知哉氏は、飼養衛生管理基準の改定後も豚熱の流行が止まらないことから、豚熱を媒介しているとみられる養豚場周辺の野生動物の生態について講演を行った。

「養豚場周辺ならびにヌタ場における野生動物の生態」：野生動物が目撃されている養豚場で「カメラトラップ調査」を実施。衛生管理区域内外にカメラを複数台設置し、100日間の撮影頻度を測定した。

調査の結果、養豚場の柵内にイノシシは出没していなかったが、ネコやアライグマなどの中型の野生動物の出没

が確認された。同氏は、イノシシが利用した「ヌタ場（野生動物が水浴び等をする水たまり）」を、農場内に侵入した野生動物も利用していたことを指摘。ヌタ場が病原体の伝播の結節点である可能性を指摘し、「イノシシ以外の野生動物も侵入させない対策が必要」と指摘した。

「イノシシの死体に集まる野生動物」：次に、イノシシの死体（豚熱陰性）を山に据え付け、野生動物の行動をモニタリング。イノシシは仲間の死体を警戒したもの、死体消失後の地面に体を摺り付けるなどの行動がみられた。他の野生動物は、死体を食べたり臭いを嗅いだり、体を摺り付けるなどの行動が確認された。

農研機構の早山氏らによるこれまでの研究で、農場の半径1km以内に豚熱陽性のイノシシがいた場合、300日以内に養豚場で豚熱が発生する確率は95%と判明している。同氏は、「速や

それぞれの消毒薬の有効条件	
逆性石けん類	●用法用量に記載の低希釈での使用（本研究：500倍） ●豚熱ウイルスの不活化効果が低温環境で顕著に低下することに注意 ●使用濃度に調整した十分量の消毒薬で洗浄しながら使用（ウイルス及び有機物の希釈と消毒）
ハロゲン類（塩素系）	●用法用量に記載の比較的低希釈（本研究：300～500倍） ●豚熱ウイルスの不活化効果が低温環境及び有機物存在で顕著に低下⇒消毒時間の延長を図る ●消毒の際、高温環境では希釈倍率の上昇も可能（本研究：1000倍から2000倍）
アルデヒド類	●比較的に有機物の影響を受けにくい（有機物が無い方が望ましい） ●比較的に温度の影響を受けにくい ●環境に合わせて希釈倍率を選択することが可能

*低希釈のハロゲン類(塩素系)やアルデヒド類などの消毒薬は、人や動物などの生体や環境への負荷もあることに留意が必要
日本獣医生命科学大学 獣医学部 青木氏の発表資料から作成

かな死体の撤去と周辺土壌の消毒が重要」と指摘した。

◆低温・短時間では効果が低い

日本獣医生命科学大学の青木博史氏は「豚熱ウイルスに対する消毒薬の効果の検証」と題して講演。特に唾液などからウイルスが伝播されることが多いため、消毒薬の濃度別・温度別・有機物の有無別・消毒時間別で効果を検証したところ、表のように有効条件に差がみられた。

3つの消毒薬は豚熱に効果があるものの、消毒薬の特徴や用法に合わせた使い分けが重要と指摘した。

◆ウイルス遺伝子から感染経路を推定

農研機構の山本健久氏は、「ウイルスの遺伝子から解明する感染拡大経

路」と題して講演。国内で発生した豚熱のウイルス株の違いから、感染経路を特定できることを紹介した。

今はウイルスのゲノム（遺伝子の情報）の細かな違いを特定できることから、それぞれの豚熱が①どのルートで野生イノシシから感染したのか②感染イノシシが運んできたのか、他の農場から運ばれてきたのかなどを特定することができる。これにより、国内でみると6つのルートの、最大1343kmにも及ぶ感染ルートがあったことを突き止めた。

こうした長距離の伝播はイノシシの生息地に入出入りする人や車両によって起こった可能性が高いことから、消毒の徹底の重要性を改めて指摘した。

ドローン播種で省力化

WCS用稲刈取前に播種

栃木県那須農業振興事務所は、管内のWCS用稲と牧草の二毛作ほ場で、収穫前の水稲立毛水田へのドローンによる牧草の播種実証試験を行った。

◇WCS用稲の立毛状態での牧草播種

WCS用稲と牧草の二毛作の暦は図のとおり。WCS用稲の収穫後に播種

機でイタリアンライグラスを播種する通常の慣行体系（慣行区）に対し、実証区はWCS用稲の立毛状態（収穫する前の稲が生えている状態のこと）のほ場に、ドローンでイタリアンライグラスの播種を行った。

慣行の通常収穫ではイタリアンライグラスの播種の前に耕起・整地を行う

慣行播種との作業体系の比較(22年度)

慣行播種(イタリアン播種:10月16日)

作目	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
WCS用稲(つきあやか)		6/29 移植		10/1~3 刈取・反転集草・梱包								
イタリアンライグラス			10/4~15 耕起→10/16 整地・播種・鎮圧									5/2 刈取

ドローン播種(イタリアン播種:9月29日)

作目	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
WCS用稲(つきあやか)		6/20 移植		10/1~3 刈取・反転集草・梱包								
イタリアンライグラス			9/29 播種	10/1~3 鎮圧(収穫作業同時鎮圧)								5/2 刈取

が、ドローン播種では、WCS収穫作業とイタリアン播種後の鎮圧を兼ねることができると、省力化と効率化が期待できる。

◇実証の結果

22年度の生草収量は、慣行区で4684kg/10a、実証区で4036kg/10aと、実証区は慣行区の収量の86%だった。乾物率は両区ともに23.3%で、乾物収量は慣行区1091.4kg/10a、実証区は933.9kg/10aだった。

23年度は、慣行区の生草収量が5484kg/10a、乾物率20.6%、乾物収量1130kg/10aで、実証区が生草収量4430kg/10a(慣行区の81%)、乾物率20.1%、乾物収量890kg/10aだった。なお、22年度と23年度では使用するドローンの種類を変えたことにより、タンク容量は40Lと3倍強、播種時間は50分/10aから12分/10aへと短縮された。イタリアンライグラスの播種日は、慣行区が10月16日、実証区が9月29日と17日早くなった。

◇まとめ

イタリアンライグラスの播種前作業



【播種風景(23年度 9.11)】

栃木県那須農業振興事務所の資料から

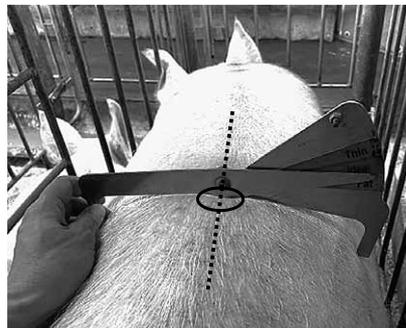
である耕起・整地を行わない稲立毛状態でのドローン播種でも、慣行播種の80%以上の収量を確保できることを実証した。また、大型ドローンを利用することでより播種作業を省力化できた。さらに、耕起・整地を行わない分、作業が効率化され、播種を2週間以上早めることができた。大面積を作付けする場合や、ほ場の状況によって起こりうる、「イタリアンライグラスの播種が遅れてしまう」という課題の解決に役立てることができる。

ドローン播種の実証は24年度も継続しており、イタリアンライグラスの収穫はこれからだが、順調に生育が進んでいる。

育成母豚の簡易なBCS測定に 分度器型測定機の紹介

3月19日に都内で開催されたピクア倶楽部セミナーで、日清丸紅飼料(株)技術サポート部の河本敏夫氏が、「ピクア種豚のボディコンディション管理について」と題して講演を行った。母豚のBCS(ボディコンディションスコア)を簡単に測定できる分度器型の測定機、「サウキャリパー」を紹介する。

●育成母豚のBCSの後ろ姿からの判定は、担当者により結果が異なる場合があり、熟練が必要となる。サウキャリパーを使った測定では、「薄い」「適正範囲」「厚い」の3段階で母豚の背脂肪を判定する。測り方は写真のように、①肋骨を見つける②そこから正中線(背骨:点線部分)に真っすぐ上がる③測定機の支点を正中線(○部分)に当て、ロース部分の盛り上がり度合いを角度で測定し、数値を読む一



サウキャリパーでの計測

写真提供:ピクアジェネティクス(株)

の3段階で測定を行う。

●サウキャリパーによる測定値と育成豚の体重には相関関係がみられ、初回交配時の目安として利用可能とみられた。測定値の理想は13-15(体重推定値135-165kg)で、許容範囲は12-16(130-180kg)としている。

経産豚についても、BCSの確認には有効とされる。

韓国で口蹄疫1年10ヵ月ぶりに発生 感染予防の徹底を

韓国で1年10ヵ月ぶりに口蹄疫が発生した。3月14日の農水省の発表(出展:韓国農林畜産食品部、WOAH)によると、3月13日に韓国南西部の地域(全羅南道)の肉牛農場で、感染が確認された。その後も周辺の農場で相次いで確認されており、4月14日時点で牛と豚併せて19件にのぼっている。

これを受け、同省は国内への侵入リスクが極めて高い状況が続いているとして、警戒を呼び掛けている。2000年と10年に日本国内で発生した際は、い

ずれも韓国で発生した後だったため、感染予防を徹底する必要がある。

〈感染予防の基本〉

農場の出入り口に看板を設置するなどして関係者以外の立ち入りを制限する。農場に出入りする際は、専用の靴と衣服を着用し、手指を消毒するとともに、持ち込む物品や出入りする車両の消毒を徹底する。また、畜舎の出入り口に専用の靴や踏み込み消毒槽などを設置することで、出入りする人の靴底の消毒を徹底する。

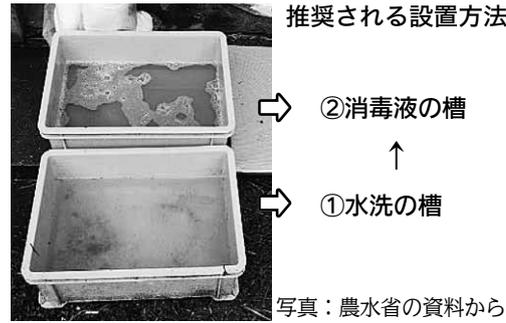


写真:農水省の資料から

また、口蹄疫が発生している国への渡航は可能な限り控え、これらの国からの郵便物等は衛生管理区域に持ち込まないようにする。

〈効果的な消毒を〉

畜舎ごとに専用の靴や踏み込み消毒槽を設置する。踏み込み消毒槽の消毒液は、汚れで効果が薄れるため、先に汚れを落としてから消毒する(写真)。

消毒薬が汚れてきた場合は直ちに交換する。

農場に出入りする車両を消毒する時は、タイヤを消毒するだけでなく、泥よけの内側部分まで消毒し、衛生管理区域内で降車する場合は農場専用のフロアマットなどの使用や車内(ハンドルやドアノブ等)の消毒を行う。

その際、逆性石けんやアルコールは口蹄疫の消毒薬としては適さないほか、酸性とアルカリ性の消毒薬を同時に使用すると消毒効果が弱まるので注意する。

これらのポイントに注意を払い、十分な口蹄疫対策を行いたい。

24年産 飼料作物面積4%減 牧草収穫量は1%増



農水省は3月7日、「24年産飼料作物の作付(栽培)面積及び収穫量」を公表した。全国の飼料作物全体の作付面積は、前年より減少した。

全国の飼料作物全体の作付面積は97万5500haで、前年産に比べ4万2500ha(4%)減少した。これは、飼料用米等の作付けが減少したためと分析している。

田畑別では、田が3万4600ha(12%)減の25万2000ha、畑が7600ha(1%)減の72万3400haだった。田の減少は、飼料用米から主食用米への転換が主な理由と同省は分析している。

【牧草】

作付面積は9700ha(1%)減の69万5500ha。10a当たり収量は3470kgで、収穫量は2414万8000tとなった。

都道府県別の収穫量割合は、全国の71%を北海道が占め、鹿児島県が4%、岩手県と沖縄県が3%となっている。

【青刈りトウモロコシ】

作付面積は、700ha(1%)減の9万6500ha。10a当たり収量は5150kg、収穫量は497万2000tとなった。

都道府県別の収穫量割合は、北海道が全国の68%を占め、次いで栃木県が5%、岩手県と宮崎県が4%と続いている。

【ソルゴー】

作付面積は、他作物への転換などがあったことから700ha(6%)減の1万1000haとなった。10a当たり収量は前年産より7%減の3940kg、収穫量は6万3900t(13%)減の43万3300tだった。これは、九州の一部地域で高温や少雨の影響による発芽不良や生育不良がみられたためとしている。

都道府県別の収穫量割合は、宮崎県が24%、鹿児島県が14%、長崎県11%となっており、この3県で全国の約5割を占めている。

乳用牛への黒毛和種交配38.5%に減少 性選別利用割合は過去最高

(一社)日本家畜人工授精師協会は、24年第4四半期(10~12月期)の「乳用牛への黒毛和種の交配状況について(速報)」を公表した(下表)。

黒毛和種の交配割合は、全国平均で

38.5%と、前期(24年6~9月期)の39.8%から減少した。性選別精液(乳用雌)の利用割合(全国平均)は24.8%で、前期より1.3%増、前年同期より3.7%増加し、過去最高となった。

地域	延べ人工授精頭数	黒毛和種授精頭数	黒毛和種の割合(%)	黒毛和種交配割合前期比(%)	黒毛和種交配割合前年同期比(%)
北海道	219,203	62,349	28.4	0.1	0.8
東北	7,892	3,056	38.7	▲2.1	▲1.0
関東	15,811	8,184	51.8	▲2.9	▲3.1
東海	5,217	3,663	70.2	▲1.5	1.6
北陸	941	553	58.8	▲7.4	0.4
近畿	3,991	2,695	67.5	▲8.5	0.3
中四国	4,188	2,952	70.5	▲1.3	▲4.5
九州	5,287	3,221	60.9	▲6.5	▲6.3
都府県	43,327	24,324	51.6	▲3.3	▲4.0
全国	262,530	86,673	38.5	▲1.3	▲1.4

(一社)日本家畜人工授精師協会の資料から作成

悪臭や水質汚濁の苦情多数 畜産経営への苦情発生状況

農水省が公表している24年における「畜産経営に起因する苦情発生状況」によると、苦情発生戸数は1384戸で、前年と比べ4戸増加した。苦情発生率は2.4%で、飼養戸数の減少と共に微増傾向にある。

畜産全体に対する畜種別の苦情発生戸数の割合をみると、乳用牛が356戸で25.7%(前年比1.1%増)と最も多く、次いで肉用牛が337戸で24.4%(同0.4%減)、豚が316戸で22.8%(同1.0%減)などとなっている。

苦情内容別では、悪臭関連が869件で53.4%(前年比0.3%減)と最も多く、水質汚濁関連が274件で16.9%(同0.5%増)、害虫関連が155件で9.5%(同0.3%減)、その他が328件で20.2%(同0.2%増)となっている。

また、畜種別の苦情発生率をみると、採卵鶏が12.4%(前年比1.1%増)で最も多く、豚が10.5%(同0.8%増)と続いている。飼養規模別の苦情発生率については、ブロイラーを除いた各畜種で、飼養規模が大きくなるほど苦情発生率が高くなっており、近年、同様の傾向が続いている。

全体の苦情発生戸数から新規の苦情発生戸数を除いた「同一経営体に対する繰り返しの苦情発生戸数の割合(=継続の苦情)」は、豚が70.6%(前年比1.7%増)と最も高く、採卵鶏が69.2%(1.1%増)と続いている。全体の41.3%が新規の苦情、残り58.7%が繰り返しの苦情であり、調査を開始した20年以降、同様の傾向が続いている。

畜産経営に起因する苦情の畜種別・内容別発生戸数(24年)(単位:戸、%)

区分	悪臭関連	水質汚濁関連	害虫関連	その他	合計
乳用牛	237 (27.3)	61 (22.3)	31 (20.0)	89 (27.1)	356 (25.7)
肉用牛	200 (23.0)	62 (22.6)	46 (29.7)	106 (32.3)	337 (24.4)
豚	227 (26.1)	107 (39.1)	15 (9.7)	24 (7.3)	316 (22.8)
採卵鶏	122 (14.0)	29 (10.6)	55 (35.5)	25 (7.6)	201 (14.5)
ブロイラー	67 (7.7)	7 (2.6)	2 (1.3)	11 (3.4)	79 (5.7)
馬	3 (0.4)	0.0	2 (1.3)	4 (1.2)	8 (0.6)
その他	13 (1.5)	8 (2.9)	4 (2.6)	69 (21.0)	87 (6.3)
合計	869(100.0)	274(100.0)	155(100.0)	328(100.0)	1,384(100.0)
構成(%)	53.4	16.9	9.5	20.2	100.0

注1:「悪臭関連」には、悪臭単独の苦情に加え、悪臭以外の苦情(水質汚濁、害虫発生等)を併発しているものも含む(その他の分類も同様)。このため、各分類の戸数を合計した戸数と、「合計」欄の戸数は一致しない。
注2:「その他」に分類される苦情の内容は、ふん尿の散乱、脱走等である。農水省の資料から

今月も交雑種は発動せず 牛マルキン2月分

農畜産業振興機構は4月9日、肉用牛肥育経営安定交付金(牛マルキン)の交付金単価(25年2月分、概算払い)を公表した。

乳用種で標準的販売価格が標準的生産費を下回ったため、交付が行われる。

肉専用種は8都道府県で発動した。今月も交雑種での発動はなかった。

交付金単価(1頭当たり)は、乳用種は2万5234.4円(前月は4万6238.6円、概算払い)となっている。

前月分と比べ、素畜費が約2万円減少したことから、交付金単価は減額となった。交雑種は昨年11月分から4ヵ月連続で発動していない。

風味や食感が様々な特徴に 国産乳酸菌で作るチーズ試食会

(公財)日本乳業技術協会は3月12日、「国産乳酸菌で作るオリジナルチーズ試食会」を都内で開催した。「チーズ製造の基礎知識とJチーズスターターの意義」と題した講演で、(一財)蔵王酪農センターの宮沢秀夫理事・営業部長が、「乳酸菌スターターは、チーズの特徴や風味を生成する重要な原材料。世界から高い評価を受ける日本のチーズが、益々、日本独自だ!と胸を張れる特徴を出すことにJチーズスターターが寄与すると期待したい」とコメントした。

Jチーズスターターを使ったチーズ

生産事業に参加した15工房が登壇し、使用した感想などを発表。「情報量がまだ少なく、手探りで模索しながら試作品を仕上げた」との声が多かった。

そのうち14工房が試作したチーズを出品。通常の輸入スターターを使ったチーズと「Jチーズスターター」を使ったチーズを並べて試食できるようにすることで、チーズに与える風味などを、参加者の質問に答えながら説明した。

出品されたチーズは、カマンベール、モミレット、ゴーダ、白カピタイプ、ブルーチーズなど11種類。いずれのチ



Jチーズスターター区と対照区を比べて試食できる

ーズも事業で生まれた4種類のJチーズスターターを使用しており、チーズ単品での試食のほか、工房がおすすめするチーズが合う料理も提供・紹介された。

同じスターターを使っている、ウ



試作チーズを使った料理

ォッシュタイプは水分量の多いなめらかな口当たりになり、ハードタイプでは酸味が強まるものがあるなど、チーズの種類によって様々な特徴がある。会場では、工房関係者と参加者の活発な情報交換が行われた。

牛枝肉

乳用種は頭数減もあり、動きは強もちあい

大阪・関西万博が始まり、消費拡大が期待されるが、交雑種は部分肉で割高感が出ており、大きな上昇はあまり期待できないが強もちあいの動き。

乳用種は頭数減が見込まれ、強もちあいが予想される。

【乳去勢】3月の東京食肉市場の乳牛去勢B2の税込み枝肉平均単価(速報値)は、1131円(前年同月比129%)となり、前月より22円上がった。

4月も頭数は減少傾向にあり、相場も強もちあいの動きと見られる。

【F1去勢】3月の東京食肉市場の交雑種去勢の税込み枝肉平均単価は、B3が1502円(同97%)、B2が1394円(同97%)だった。前月に比べ、B3が27円減、B2は14円増と、もちあい

での推移となった。

4月に入り、B3で1600円台、B2も1500円台のやや上げの動きで、強もちあいの推移となっている。

【和去勢】3月の東京食肉市場の和牛去勢の税込み枝肉平均単価はA4が2265円(同104%)、A3が2111円(同105%)だった。前月に比べ、A4が25円、A3は10円ともに下がった。

4月に入っても、A4で2200円台と落ち着いているが、連休前需要で一時は強含みとなる見込み。

【出荷頭数】4月の出荷頭数は、和牛4万8700頭(同105%)、交雑種2万3200頭(同104%)、乳用種2万4400頭(同91%)と、乳用種以外は若干増加する見込み。

【輸入量】農畜産業振興機構は4月の冷蔵・冷凍品の輸入量を総量で5万7300t(同91%)と予測。内訳は、冷

蔵品1万5700t(同86%)、冷凍品が4万1600t(同92%)。ほとんどの輸入先で、冷蔵・冷凍品ともに前年を大幅に下回ると予測される。

向こう1カ月の東京食肉市場の税込み枝肉平均単価は、乳去勢B2が1050~1150円、F1去勢B4が1700~1800円、同B3が1600~1700円、同B2が1400~1500円、和牛去勢A4が2250~2350円、同A3が2100~2200円での推移か。

豚枝肉

需要期に入り、相場は上昇傾向となる見込み

3月の東京食肉市場の豚枝肉税込み平均単価は、上物614円(前年同月比112%)、中物は591円(同112%)となった。前月に比べ上物が7円減、中物も7円減と、年度末の買い控えでやや動きは鈍った。

4月に入っても、600円に届かない推移となっているが、今後は需要期に入り、万博開催や連休などの大型イベン

ともあることから、相場は上昇傾向に向かうと見られる。

農水省の肉豚生産出荷予測によると、4月は140万頭(前年同月比98%)と、前年をわずかに下回る予測。しかし、豚熱等の拡大がなければ、出荷頭数は平年並みと予想される。

農畜産業振興機構の需給予測によると、4月の冷蔵・冷凍品の輸入量は総量で8万2500t(同84%)と、前年よりかなり下回る見込み。内訳は、冷蔵品3万1000t(同92%)、冷凍品5万1500t(同79%)。冷蔵品は、米産の輸入量の減少が見込まれる。

向こう1カ月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、上物が600~700円、中物も550~650円と、上昇傾向の展開となるか。

3月の子牛取引状況

(頭、kg、円)

ブロック	品種	頭数		重量		1頭当たり金額		単価/kg	
		当月	前月	当月	前月	当月	前月	当月	前月
北海道	乳去	482	402	295	285	191,014	196,957	648	690
	F1去	2,101	1,841	331	334	400,136	403,042	1,209	1,207
	和去	2,310	2,224	335	336	703,640	673,585	2,100	2,005
東北	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F1去	2	1	305	197	218,900	216,700	718	1,100
	和去	2,488	2,217	321	323	636,430	623,857	1,982	1,933
関東	乳去	41	-	274	-	275,805	-	1,008	-
	F1去	142	138	339	341	399,401	400,567	1,178	1,173
	和去	681	939	330	323	727,131	659,199	2,205	2,040
北陸	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F1去	-	-	-	-	-	-	-	-
	和去	66	81	317	299	690,433	634,170	2,178	2,121
東海	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F1去	39	40	316	294	425,813	379,005	1,348	1,289
	和去	472	222	289	276	714,415	606,932	2,469	2,195
近畿	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F1去	-	-	-	-	-	-	-	-
	和去	409	401	269	263	1,016,505	1,039,779	3,774	3,954
中四国	乳去	34	8	260	280	150,409	168,025	578	599
	F1去	237	192	320	325	436,352	424,251	1,361	1,306
	和去	884	502	314	311	638,005	625,613	2,035	2,013
九州・沖縄	乳去	2	-	341	-	138,050	-	405	-
	F1去	305	189	318	312	437,392	454,201	1,373	1,456
	和去	9,310	7,715	299	301	690,103	643,570	2,310	2,141
全国	乳去	559	410	292	285	194,574	196,393	666	689
	F1去	2,826	2,401	329	331	407,383	408,144	1,238	1,233
	和去	16,625	14,304	308	310	691,338	655,994	2,245	2,116

注：(独)農畜産業振興機構の公表データを基に本紙集計、当月は暫定値。価格は消費税込み、重量・金額・単価は加重平均。-は上場がなかったことを示す。関東ブロックは山梨県、長野県、静岡県を含む。

畜産物需給見通し

素牛 スモール

スモールは乳雄F1共に頭数減で高止まりか

【スモール】3月の全国24市場の1頭当たり税込み平均価格(農畜産業振興機構調べ、月末の取引結果を除く暫定値)は、乳雄が6万8621円(前年同月比136%)、F1(雄雌含む)は19万4356円(同181%)と、前月に比べ、乳雄は2万6448円増、F1は3万5504円増と、ともに急騰した。

市場によるバラツキが激しく、北海道では乳雄が10万円を超える市場も出てきた。上場頭数の減少が大きく影響するようになってきた。

F1も頭数減の影響と、枝肉相場が比較的安定していることもあり、強含みの展開となりそう。

【乳素牛】3月の乳素牛の全国1頭当たり税込み平均価格(左表、月末の取引結果を除く暫定値)は、乳去勢が19万4574円(同125%)、F1去勢は4万7383円(同114%)だった。前月に比べ乳去勢は1819円減、F1去勢も761円下がった。

乳去勢・F1去勢ともに、スモール同様、今後頭数は減少傾向となると予想される。

【和子牛】3月の和子牛去勢の全国1頭当たり税込み平均価格(同)は、69万1338円(同105%)で、前月より3万5344円増と、急騰した。

当月のデータは暫定で、3月の全てが加算されているわけではない。

今後は上場頭数の減少が見込まれているので、相場は強もちあいか。